

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会
周波数管理・作業計画委員会第 2 回会合

1 開催日時

平成 24 年 5 月 14 日（月）15 : 00 ~ 17 : 00

2 場所

三田共用会議所 大会議室

3 出席者（敬称略）

・専門委員：

小林 哲、門脇 直人、阿部 宗男、岩間 美樹、小川 博世、加保 貴奈、田村 知子、中津川 征士、西田 幸博、橋本 明、藤咲 友宏、矢野 由紀子

・関係者：

丹野 元博、田北 順二、野田 華子、井上 浩樹、金子 雅彦、立澤 加一、小竹伸幸、逆井 研司、黒森 博志、河野 健司、松本 孝純、須田 良久、高尾 浩平、高田 仁、中村 勝英、中村 隆治、浜名 康広、平野 知、岡 眞二、三留 隆宏、三浦 望、菅田 明則、古山 賢二、水池 健、山崎 豊栄、北澤 弘則、寶迫 巖、服部 光男

・事務局：

本間室長、川崎補佐、奥川係長、渡邊官（国際周波数政策室）
臼井監視官、黒田係長（電波環境課）、
佐藤補佐、下地係長、井上係長（監視監理室）、
丸橋係長、桐山官（衛星移動通信課）

4 議事

1 SG1、WP1A、WP1B及びWP1C会合（平成23年5-6月）の結果について

2 SG1、WP1A、WP1B及びWP1C会合（平成24年6月）への対応について

(1) 対処方針（案）の審議

(2) 提出予定日本寄与文書（案）の審議

(3) 外国入力文書に関する審議

3 RAG会合（平成23年6月）の結果について

4 RAG会合（平成24年6月）への対応について

(1) 対処方針（案）の審議

(2) 提出予定日本寄与文書（案）の審議

(3) 外国入力文書に関する審議

5 その他

5 議事概要

(1) 前回議事概要

資料 2-1 の前回委員会の議事概要について、コメントがある場合は 5 月 15 日 (火) 13 時までに事務局に提出することとされた。

(2) SG1、WP1A、WP1B 及び WP1C 会合報告

資料 2-2 から 2-5 までの 2011 年 5-6 月に開催された SG1 関連会合の報告について、特にコメント等はなかった。

(3) SG1 関連会合の概要について

資料 2-7 の SG1、WP1A、WP1B 及び WP1C 会合の概要について、特にコメント等はなかった。

(4) SG1 関連会合への対処について

SG1 関連会合の対処方針案の全体について、資料 2-8 に基づき事務局より説明が行われた。個別事項について、WP1A 会合については資料 2-8-1 に基づき、WP1C 会合については資料 2-8-2 に基づき、事務局よりそれぞれ説明が行われた。質疑概要は以下のとおり。

■SG1 関連会合への対処について

(専門委員) 前例に合わせ「報告書」を「報告」と修正すべき。

(事務局) 了解。

(専門委員) PLC の周波数帯は使っていないから審議状況の把握のみと記載があるが、放送は他国向けにも行っていることを考慮すべき。

(事務局) 了解。「我が国の既存業務保護の観点から審議状況の把握に努める。」という修正でどうか。

(専門委員) 基本的な対処方針として、「日本提出寄書が反映されるように対処する」という旨の文言が必要ではないか。

(事務局) 指摘を踏まえ修正の上、後日メール審議させて頂く。

(5) SG1 関連会合に入力する日本寄書について

日本から SG1 関連会合に提出予定の寄与文書について、資料 2-9 に基づき事務局より説明が行われた。また各提案について、資料 2-9-1 から資料 2-9-3 に基づき関係者及び事務局より説明が行われた。その後、以下のとおり質疑が行われた。

■SG1 関連会合に入力する日本寄書について

□2-9-1 電波監視における干渉信号を分離するための ICA 手法の応用例の紹介
(専門委員) Question に基づき既に Working Document ができあがってはいないのか。

(関係者) 今回で初めて議論の場に上がるものである。

(専門委員) Annex として付けるべき元の勧告の素案もないとのことだが、最

最終的には勧告への反映を目指しているのか。

(関係者) そのとおり。今後各国からのどれくらい文書が集まるかによるが勧告への反映を目指している。

(専門委員) Future Recommendation として提出する方が良いのでは。

(専門委員) Question の骨組みだけでも作った上で寄書提出するのが良い。

(関係者) 総務省と相談して検討する。

(専門委員) 対象とする技術は、 $\pi/4$ QPSK の信号に対して適用しているようだが、対象はもっと広いのか。

(関係者) $\pi/4$ QPSK は一例に過ぎない。対象はもっと広い。

(専門委員) ICA 手法は一般的に利用可能なのか、特定の領域でのみ利用可能なのか。

(関係者) 一般的に有効な手法と考える。

(専門委員) これらの疑問は勧告の骨子案を作れば、明確になると思われる。

要は既存の技術を監視に利用することを目指しているのか。

(関係者) そのとおり。ICA 手法は一般的に認められている技術である。

(専門委員) 勧告の骨子作成を目指すなら寄書の補足をするべき。このままでは Information Paper 扱いになってしまう。

□2-9-2 船舶用固体素子レーダーのスペクトル発射測定

(専門委員) アウトプットは何か。

(事務局) Report のための Working Document の作成である。

(専門委員) system を単数として表記するのか複数として表記するのか明確にすべき。また、図は graph ではなく figure と表記するのが一般的。

(事務局) 了解。

(専門委員) Preliminary Draft Report を作成し、アウトプットを早く出し、完了させることを目標にしてほしい。

(専門委員) Conclusion 部分の英文の主語述語が不明瞭であり意図がわからない。

(事務局) 了解。御指摘のとおりなので見直す。

(専門委員) 今回の寄書は 40dB での実例を出すことで勧告化を目指すものだと理解している。

(専門委員) いずれにしても、寄書の意図を明確にするために表現の訂正が必要。

(事務局) 指摘を踏まえ修正の上、後日メール審議させて頂く。

□2-9-3 「275-1000GHz 帯における能動業務の技術・運用特性」に関する新研究課題草案の提案

(関係者) considering を読んだが、アプリケーションの具体例が欲しい。

- (関係者) 案はあるが、広く捉えられるようにということで記載していない。
- (専門委員) 対象を 1,000GHz までで区切っているのはなぜか。
- (関係者) 1,000GHz という技術的な意味はエレクトロニクスでカバーできる範囲で 5~10 年でできる部分という意味で区切った。そこから上はフォトニクス的なことを入れないとカバーできない。
- (専門委員) WRC-12 の議題 1.6 で見直しがあり、1,000GHz 以上は受動業務のみとなっており、1,000GHz 未満では能動・受動業務が混在している。terrestrial と付けたら良いのではないか。
- (専門委員) terrestrial を付けたら SG5 の所掌になってしまう。considering の i) は受動業務の関係者が気にするので、なくてもよいのではないか。
- (関係者) 検討する。
- (専門委員) 「preliminary」はなぜ付けたのか。
- (関係者) report までに時間がかかりそうなので付けたもの。
- (専門委員) report まで持って行ける材料があるなら外した方が良い。ないならば寄書を出さない方が良い。
- (専門委員) preliminary results ではなく、initial result、partial results などの単語を使うのはどうか。
- (関係者) 検討する。
- (事務局) 指摘を踏まえ修正の上、後日メール審議させて頂く。

(6) SG1 関連会合に入力された外国寄書への対処について

外国寄与文書の審議表全般について、資料 2-11 に基づき事務局より説明が行われた。現時点で寄与文書提出による積極的な対応を要するもの及び対処を必要とするものについて、担当課より説明が行われた。その後、以下のとおり質疑が行われた。

■SG1 ブロック会合に入力された外国寄書への対処について

- (専門委員) 「我が国の考え方に基づき」ということだが、我が国だけが用いているということなのか。
- (事務局) 「我が国の考え方」というのは我が国での長年の発生状況調査に基づくもので、そういう意味では我が国独自の考え方を使っている。しかしハンドブックの内容とそこまで違うとも考えていない。

(7) RAG 会合の概要及び前回会合報告について

資料 2-6 の 2011 年 6 月に開催された RAG 会合報告及び資料 2-12 の 2012 年 6 月に開催される RAG 会合の概要について、特にコメント等はなかった。

(8) RAG 会合への対処について

RAG 会合の対処方針案について、資料 2-13 に基づき事務局より説明が行われた。その後、以下のとおり質疑が行われた。

■RAG 会合への対処について

(専門委員部) そもそもコストリカバリは議題になるのか。

(事務局) Report に記載があるため、万一話題になったときに備えてのことである。

(専門委員) 衛星系関係者にとっては本方針でいいかもしれないが、国の方針としても問題ないのか。

(事務局) 理事会の話であるため総務省国際政策課の所掌であるが、当室にも検討依頼がくることになっており、意見が取り入れられるため国として、統一した対処を行っている。

(9) RAG 会合に入力する日本寄書について

RAG 会合に入力する日本寄与文書全般について、資料 2-14 に基づき事務局より説明が行われ、特段のコメントもなく承認された。

(10) RAG 会合に入力された外国寄書への対処について

RAG 会合に入力された外国寄与文書について、資料 2-15 に基づき事務局より説明が行われた。

(11) その他について

今後の扱いについて、事務局より説明が行われた。日本寄与文書案等に対し、特段のコメントがある場合は早急に事務局に連絡いただきたい旨、案内があった。

本日のコメントを受けて寄与文書案等を修正する必要があるものについては、5月16日(水)12時までに、修正版を事務局に送付することとされた。

参考資料1及び2の周波数管理・作業計画委員会構成員及び関係者の一覧、参考資料3のSG1、WP1A、WP1B及びWP1C会合並びに参考資料4のRAG会合への出席予定者一覧について、部署名、役職名、連絡先等に変更がある場合には、適宜事務局に連絡することとなった。

また、下記のとおり全体を通しての意見があった。

■全体を通しての意見について

(専門委員) SG1 会合等の直後に結果報告が欲しい。しかし人数も多いので、次善の策としては会合報告をメールで配布してほしい。

(専門委員) 今回の委員会はペーパーレス化の試みを行ったが、他の国内委員会はどうか。

(専門委員) SG5 などの国内委員会でもペーパーレス化はしていない。プロジェクタでスクリーンに投影するなど良いかもしれない。

(専門委員) 提出文書については事前にメンバーにメール展開してほしい。